

3~6歳

## なんでも「イヤー!」

「ほんまときどつする?!」

どうしてイヤなの?! なんでイヤって言うの!?

↓子どもと同じレベルで受け止めてバトル

NG!

これとこれ、どっちがいいかな?  
じゃあ、ママが食べちゃおうっと!

↓大人としての「一枚上手」の対応

GOOD!

2~3歳頃に訪れるイヤイヤ期。朝から夜まで「イヤー! イヤー!」の連続で、「人格を否定された」と思ってしまうお母さん・お父さんもいるのではないのでしょうか? しかし、この時期の子どもの「イヤ」は、反抗心や人格否定からのものではありませんし、親の考えを理解した上で「イヤ」と言っているわけでもありません。

子どもは、生まれてから1年くらいかけて、親との「愛着関係」を築いていきます。親を信頼できる対象とみなし、その関係を基盤にして、2歳前後から少しずつ外の世界を探索するようになります。自分がやりたいことを自発的にどんどんやりたい——そんな自立心の芽生えから、この時期の子どもは「イヤー!」を連発するのです。これは健全な発達であり、乳児期からの応答的な関わりが実って、親子間にしっかりとした愛着関係が築けていることの表れです。お子さんが「イヤ、イヤ!」と叫びはじめたら、お子さんが健全に発達しているのだと、これまでの子育てがうまくいっていると称賛してください。とはいえ、四六時中「イヤ! イヤー!」ばかりだと、いくら健全な発達だといっても、疲れてしまいますよね。

子どもが口にする「イヤ」に対して、同じレベルで受け止めてバトルしたり、「どうしてイヤなの?!」と一つひとつ理由を問いただしたりしても仕方ありません。

朝食のパンを「イヤ!」と言ったのなら、「そっか、イヤなんだね」といったん下げて別のお皿に移して「これ食べる?」と提案したり、「いいよ、食べなくても。ママは大好きだから、ママが食べちゃおうっと!」と食べるそぶりを見せたりするなど、大人である親のほうが一「一枚上手」の対応ができるといいでしょう。